

5月25日（日）田辺市集会・2025年原水爆禁止国民平和大行進

日本政府は禁止条約の署名・批准を！！



木村晃和副市長

5月25日（日）くもり。田辺市集会は、津村光男さんの進行です。まず、主催者挨拶です。岡田正和弁護士は「国民平和行進は1958年広島から第4回原水爆禁止世界大会が開かれる東京に歩き始めました。国民平和行進は被爆者の想いに心寄せ、核兵器の非人道性を訴え、核兵器を廃絶しようとする願いを歩くという単純な行動で示す、誰にできる行動です。皆さんごいっしょに歩きましょう。」と呼びかけました。次に、真砂田辺市長からのメッセージです。「核兵器のない未来をきり開く為に、2025年原水爆禁止国民平和大行進は世界大会の成功をめざし行進をされています皆様にご敬意を表します。我が国は世界で唯一の被爆国であり、一瞬にして尊い命が奪われました。今もなお世界の多くの人達が核兵器の脅威に晒されている状況が続いています。私たちは被爆国としての体験を全世界に向けて訴え、真の世界平和の実現に務めなければなりません」と、木村晃和副市長がメッセージを読み上げます。続いて、田辺市議会のメッセージを前田かよ田辺市会議員が代読します。そして前田かよ市議本人からも「昨年被爆者団体がノーベル平和賞を受賞しました。これは平和を求める我々としてとても嬉しいニュースでした。この世界の流れに呼応して、私たちもこの地域でより多くの市民の方々と手をたずさえて平和のとりくみを果たしたいと思います。しかし、異常なまでの軍拡・増税の流れの中で自衛隊の司令部の地下化が進められ、自衛隊に対して若者の名簿を提出させる市町村が増えています。田辺市においても同じように行われています。そして和歌山県においては、南紀白浜空港が平時から自衛隊の戦闘機の離発着訓練ができる特定利用空港に指定される等、戦争する国づくりが目の前で進んでいます。」と連帯の挨拶をされました。最後、わかやま市民生協の代表・濱さんが決意表明をおこないました。集会の参加は39人でした。平和大行進は、旧市庁舎前から出発し、田辺大通りをアオイ交差点まで歩き、右折して闘鶏神前で行き、再び旧市庁舎までに戻ってくるコースを歩きました。5月26日（月）は、上富田町です。